

交野市教委ニュース

第149号（令和3年12月24日発行）

「かたのあしたのがっこう」第3回講演会を開催しました

12月12日（日）、交野市保健福祉総合センター（ゆうゆうセンター）交流ホールにて、「かたのあしたのがっこう」第3回講演会を開催しました。新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を講じる中、保護者及び市民の方々とともに、市立各小・中学校の教職員が、子どもの成長の過程に関わること等について学びました。

講演「こどもたちのあしたへ、わたしたちができること」

公益社団法人 子どもの発達科学研究所 和久田 学 主席研究員 を講師としてお招きし、「こどもたちのあしたへ、わたしたちができること」と題してご講演いただきました。

子ども時代の経験や学びが人生にどのような影響を与えるのか、国内外の様々な研究データに基づく科学的な根拠をもとに、下記の内容についてお話をいただきました。

- 1 学びとは何か？
- 2 子どもの脳の発達
- 3 思春期前に何をすべきか、思春期に何をすべきか
- 4 子ども時代の経験が人生にどのような影響を与えるのか
- 5 子どもたちの未来のために大切なこと



特に思春期における脳の成長過程に触れ、そのような時期に私たち大人はどのように関わっていけばよいのかお話をいただきました。また、子ども時代の経験の中で、

「両親や家族、友達、教師や周りの大人たちとのあたたかくて良い関係性を構築すること」「生活、遊び、学びの場である学校や家庭が安全で心地よく、堅固であること」「自分の学校、家庭、地域コミュニティへの所属感があり、そこに居場所があること」「自己認知、社会認知、感情調整、社会的行動について学ぶ機会があること」が大切であるとお話がありました。

「ほめることにエネルギーをかける」「家庭・学校・地域の連携こそ、『居心地の良い地域』『居心地の良い学校』『居心地の良い家庭』を作り出す」など、子どもたちと関わっていく上で大切なことについて具体的にお話しいただき、家庭・学校・地域それぞれの立場において、子どもたちとの関わり方について改めて考える、貴重な機会となりました。

（参加者からの感想より（一部抜粋））

- ・「思春期の脳の特性を知ること、思春期にある子ども自身が安心できる」という話が印象に残った。ぜひ子どもたち、またその保護者たちにも伝えてほしい。
- ・「叱る時にエネルギーをかけず、ほめる時にエネルギーをかける」という言葉が印象的だった。子どものいいところをじっくり大いにほめていこうと思った。
- ・「（子どもの）適切な行動を増やす」という考え、行動は、常に意識していたことであつたが、和久田先生に科学的な根拠を教えていただいたので、とても自信になった。
- ・思春期を「科学的に考える」という考え方に驚いた。また、科学的な研究のデータを活用し、子どもたちに家庭、学校、地域みんなでアプローチしていくことの大切さを感じた。